

貯金等の標準金利 (12/3 ~)

(平成 30年 11月 30日)

1. 定期貯金 * 1W以上 1M未満はNCDのみ

ス ー パ ー 定 期	金額	期間										
		1W以上 2W未満	2W以上 1M未満	1M以上 2M未満	2M以上 3M未満	3M以上 6M未満	6M以上 1Y未満	1Y以上 2Y未満	2Y以上 3Y未満	3Y以上 4Y未満	4Y以上 5Y未満	5Y
ス ー パ ー 定 期	3百万円未満			0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
	3百万円以上			0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
	1千万円未満			0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
大 口 ・ N C D	1千万円以上	NCDのみ										
	5千万円未満	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	
	5千万円以上											
	1億円未満	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	
	1億円以上											
大 口 ・ N C D	5億円未満	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	
	5億円以上	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	
	5億円以上	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	

2. 系統通知

金額	期間	期間					
		8日以上 2W未満	2W以上 1M未満	1M以上 2M未満	2M以上 3M未満	3M以上 6M未満	6M
1千万円以上							
5千万円未満		0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
5千万円以上							
1億円未満		0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
1億円以上							
5億円未満		0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
5億円以上		(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)
5億円以上		0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010

3. 変動金利定期

預入期間	1Y以上			2Y以上			3Y		
	2Y未満	3Y未満		3Y未満			3Y		
スプレッド	0.00	0.00	0.00						
指標金利	適用金利								
3百万未満	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)
	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
3百万以上	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)
	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010
1千万以上	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)	(0.000)
	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010	0.010

5. 貯蓄貯金

金額	適用金利
10万円未満	(0.000)
10万円以上 30万円未満	0.001
30万円以上 100万円未満	0.001
100万円以上 300万円未満	0.001
300万円以上 1千万円未満	0.001
1千万円以上	0.001

6. その他貯金

種類	適用金利
普通貯金	(0.000)
当座貯金	0.001
通知貯金	正会員 (0.000)
	一般 (0.000)
定期積金	3Y未満 (0.000)
	3Y以上 (0.000)
期日指定定期	1Y (0.000)
	2Y (0.000)
系統定期 (相互援助口)	0.010

4. 系統定期(一般口)

期間	適用金利
1Y	(0.000)
	0.010
1Y (特別型)	(0.000)
	0.030

金利設定の考え方

1. 経済・金融動向について

◎ 9月の景気動向指数改定値 (26日：内閣府)

- ・内閣府が26日に発表した9月の景気動向指数改定値は、景気の現状を示す一致指数が前月比1.2pt低下の114.4となり、数か月後の景気を示す先行指数は0.2pt低下の104.3となった。
- ・内閣府は景気の基調判断を「足踏みしている」に据え置いている。

◎ 10月の企業向けサービス価格指数 (27日：日銀)

- ・日銀が27日に発表した企業向けサービス価格指数は105.3で、前年同月比で1.3%上昇し、伸び率は前月比0.2pt拡大した。人件費上昇の影響で労働者派遣サービスや警備、土木建築サービス等の価格が上昇したほか、冬場のエネルギー需要の増加に備えた動きから、外航貨物輸送等も値上がりした。

◎ 米中首脳会談 (27日：米ホワイトハウス)

- ・27日にトランプ大統領は11/30~12/1に開催されるG20首脳会議の機会に中国や日本など各国首脳と会談すると発表した。米中首脳会談の実施が正式に発表されたことで、米中貿易摩擦への警戒感が和らぎ、米株式相場が上昇の動きを見せた。

◎ 米消費者信頼感指数 (28日：カンファレンス・ボード)

- ・11月の米国の消費者信頼感指数は135.7で、約18年ぶりの高水準であった前月から2.2pt低下した。低下は5か月ぶりとなったが、米調査会社カンファレンス・ボードは「消費者の景況感はずかしく低下したが、依然歴史的に強い水準にある」との見方を示した。

◎ 10月の商業動態統計速報 (29日：経済産業省)

- ・29日に発表された商業動態速報(統計)によると、10月の小売販売額は前年同月比3.5%増となり、12か月連続で前年実績を上回った。経産省は小売業の基調判断を「緩やかに持ち直している」に据え置いた。
- ・業種別では、原油高の影響による燃料小売業(14.7%増)の伸びが目立ったほか、自動車小売業(6.6%増)や医薬品・化粧品小売業(6.2%増)が好調であった。

◎ 10月の有効求人倍率 (30日：厚生労働省)

- ・厚生労働省が30日に発表した10月の有効求人倍率は前月比△0.2ptの1.62倍と、8か月ぶりの低下となった。求人数が前月比で減少した半面、高齢者を中心に求職者が増えた。9月の自然災害により求職活動を手控えていた人が再び活動を始めたことも求職者の増加に繋がっていると見られている。

◎ 10月の完全失業率 (30日：総務省)

- ・総務省が30日に発表した10月の労働力調査によると、完全失業率は2.4%と前月比0.1pt上昇した。3か月ぶりの上昇となり、総務省は「自発的な離職が増えている側面があるが、雇用環境が良くなったことで、より良い条件の職を求める人が増えているようだ」と分析した。

2. 標準金利について

- ・短期金利、長期金利ともに低位推移が続く。
- ・標準金利は市場金利及び他行動向を勘案し、左記のとおりとする。
- ※1 12月3日(12月1日計算)に受入する相互援助口については左記金利を適用する。